タイルカーペット・ボブテックスの施工方法

施工の前に

■下地の点検 → ■割り付け 墨出し → ■材料保管 → ■材料確認 → ■養生

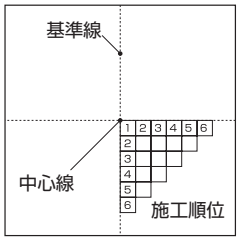
- 下地の①平滑さ、②乾燥、③強度、④汚れを点検します。
- 下地の含水率が8%以下であることを確認してください。
- 施工現場を実測し、割り付け図をもとにして、割り付け、墨出しをします。
- 材料保管の善し悪しによって仕上がり状態が左右されます。
  ①乾燥した平坦な室内に保管し、直射日光は避けてください。
  ②室内温度10~25℃、湿度75%以下での保管が最適です。
- 品番・ロット番号・数量を確認し、同一場所に他のロットのものが混在しないようにしてください。
- 10℃以上に保たれた室内の平滑な場所でタイルカーペットを箱から取り出して、表面を上にして1~2日程度積み重ね、クセを取り除いてください。特に冬季はクセが取れにくいので、必ず箱から出してください。

施工手順

❶ 施工する部屋の中心を基準にして、直角に交わるタテ、ヨコの基準線を墨出しし、部屋を４区分します。出入り口、廊下、壁面などには極端に小さなカットが入らないように、中心点を調整して割り付けてください。

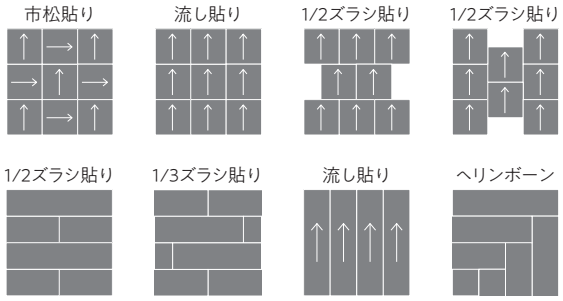
❷ 基準線に沿って基準タイルを施工します。

❸ 施工はピラミッド工法のようにすすめてください。



【柄をミックスさせて貼る場合】
色、柄に微妙な変化をつけています。
自然な感じを出すため、施工前に数ケースを混ぜ合わせてから施工してください。

❹ 貼り方によって印象が大きく違いますので、施工前に貼り方を必ずご確認ください。



❺ 同一場所は同ロットの製品で施工してください。
施工前に必ず品番、ロット番号、数量を確認してください。

❻ 目違い修正は、圧着する前に修正してください。

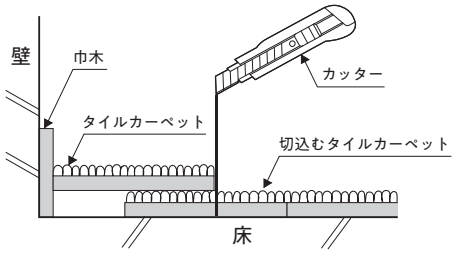
❼ 接着剤が硬化するまでは、温度変化や直射日光は避けてください。

❽ 壁際などの端部は、隙、浮きのないように納まりよくカットし、ハンドローラー等で入念に圧着してください。
圧着不良は接着不良につながり、タイルカーペットの反り、突上げ、剥がれなどが生じる事があります。

❾ 下地や施工場所によって、適した接着剤の選定をお願いします。

⚠注意
目地ズレが発生した場合は、ズレが大きくなる前にタイルをカットし、目地調整をしてください。

【壁際切断方法】
カッターを深く入れ、一度にバッキング層まで完全にカットします。残った場合はカッターを使って切り離します。



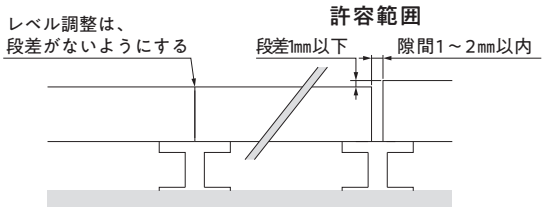
⚠注意
・表からカットすると切込み寸法が長くなる場合がありますので注意してください。

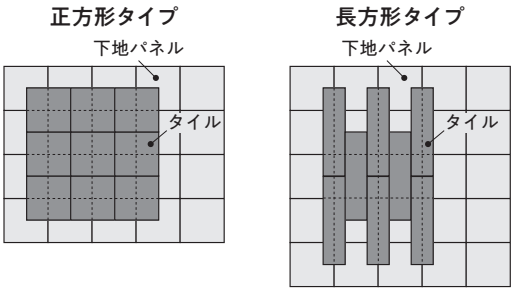
❿ 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、必要に応じて養生シートで養生してください。

二重床（OA下地）に施工する場合の注意点

下地パネルの段差は１㎜以内、隙間は１～２㎜以内になるよう、レベル調整を正確に行ってください。

［接着剤：AB-700P］





- 10℃以上の室温になじませてから施工してください。
- 調整ラインを設定し、目地ズレを修正してください。
- タイルのつめすぎは、突き上げの原因になりますのでご注意ください。
- パネルの目地をまたぐ様に施工します。
  パネルの目地とタイルの目地が重ならない様タイルをカットし、目地を調整してください。
- 目地が重なると目地スキ、段差などが発生する原因になりますのでご注意ください。
- 下地の接着面積が少ない場合、テープを貼るなどして接着面を確保してください。
- ボンドが表面にはみ出すと汚れの原因となるためご注意ください。
- ボンドは十分な量を塗布し、効果が十分に出るまでおいた後に施工してください。

⚠ 注意

下地パネルとタイルの端を揃えて貼ると、目地スキ段差が発生しますのでご注意ください。

※施工後、柄の違和感や目地が目立つ場合は、部分的に差し替えることで自然な感じに仕上がります。

⚠ 施工上の注意

- カタログの写真やサンプルと現物の色が多少違う場合があります。予めご了承ください。
- タイルカーペットの素材は繊維と塩ビです。温度変化が目地隙や突き上げの原因になります。施工前には必ず室温になじませてから施工してください。
- タイルカーペットはきつめ施工にならないようご注意ください。きつめ施工した場合でも、目地部を無理やり押し込むと一旦はきれいに納まりますが、ピールアップ形接着剤は完全に硬化しないため、後日突上げるおそれがあります。充分ご注意願います。
- 貼り方は商品ごとの推奨工法を参考にしてください。
- 施工前に仮並べをし、柄、模様を確認してください。
- 流し貼りで柄の並びや仕上がりに違和感がある場合、部分的に差し替えてください。
- 不織布バッキング製品の接着剤塗布料は一般的な PVC バッキング製品の 1.5 倍程度が目安となります。

⚠ 使用上の注意

- 長時間直射で日光が当たる場所では、パイルが変褪色する可能性がります。ブラインドやカーテンなど直接日光が当たらないようにしてください。
- タイルカーペットの剥がれ、反りなどが生じた場合は、転倒の恐れがあるためすぐに補修してください。
- 出入り口付近には足ふきマットなどを設置し、直接泥汚れが付かないようにしてください。
- 目地部に毛羽立ちがある場合
  毛羽立っている部分の隣のタイルカーペットを少し持ち上げ、起き上がったパイルを、接しているカーペットの側面で少し押さえながら元に戻すと、ある程度目立ちにくくなります。小さなマイナスドライバーの先で目地をしごいて直る場合もあります。
- 汚れた際の取り替え、ローテーションしたい場合入口など汚れやすい位置には、真物がくるように割付けます。

タイルカーペットのメンテナンス方法

カーペットは日常の清掃や予防を正しくすることで、快適な環境で気持ちよくご使用いただけます。汚れの予防には足ふきマットを使用することで効果的になります。
日常の清掃は掃除機やシミ取りが一般的なお手入れで定期的に必要なメンテナンスです。

日常のお手入れ

- カーペットの汚れの大半は埃によるものです。カーペットの毛足の中にホコリや小さな汚れが入り込んでしまうため、掃除機を丁寧にかけてください。こまめに掃除機をかけることで、ホコリを除去できます。
- 掃除機はできれば毎日、最低でも1週間に2～3回程度してください。
- 掃除機は毛並みに逆らうように色々な方向からかけることで、奥に入り込んでいる泥汚れやホコリを取りやすくなります。
  また、ペットの毛や髪の毛は、カーペットの毛に絡まりやすいので、ブラシで軽く毛並みを起こしてやると除去しやすくなります。

カーペットのお手入れ

日常のお手入れ

細かなゴミやホコリを取るために週に1～2回、毛並みの反対方向に掃除機をかけてください。

月一回のお手入れ

バケツ一杯のぬるま湯にキャップ1～2杯の中性洗剤を溶かし、
雑巾を固めに絞り毛並みの反対方向に強く拭いてください。

パイルの飛び出し

パイルが飛び出した時には、引き抜いたりせずに、ハサミで丁寧に切りそろえてください。

ダニの発生を防ぐには

ダニはあらゆる場所にいますが、日頃のお手入れと換気で繁殖は防げます。
吸引力の強い掃除機で週に2回は掃除を行い、風通しをよくしましょう。

カーペットが汚れてしまった場合

カーペットの清掃方法は水性と油性で異なります。正しい除去の仕方をしないと汚れが広がってしまう場合もありますので注意が必要です。また時間が経過すると汚れが落ちにくくなりますので、基本的には汚れたらすぐに清掃してください。洗剤を使用する場合は、表面のパイル部分のみに使用し内部の基布に浸からないようにご注意ください。洗剤が残ると汚れの付着の原因にもなります。ぬるま湯を使い、きれいな雑巾で拭き取り充分乾燥させてください。

カーペットは一部の商品を除き、基本的に丸洗いができません。中性洗剤やカーペット用クリーナーをご使用の際は、表面のパイル部分のみに使用し、内部の基布に浸らないようにしてください。パイル部分に付着した洗剤分は汚れを呼び寄せる原因となりますので、綺麗なぬるま湯に浸した雑巾などで除去し、十分乾かしてからお使いください。

水性の場合（お茶、ジュース、醤油、ソース等）

- まず、汚れの元となるものを除去してください。
- きれいな布やティッシュで水分を吸い取ります。
- 無理やり水で濡らして擦ったりすると範囲が広がりますのでご注意ください。
- しつこい汚れの場合に洗剤を使う際は、洗剤を薄めて少しずつ汚れの具合を確認しながら清掃してください。汚れが薄くなったら、洗剤が残らないようにきれいな雑巾で拭きあげてください。色が変わってしまうような強い漂白剤や消毒液などは使用をしないでください。
- かたく絞った雑巾で洗剤や拭き残しがないように、除去してください。

油性の場合（油性マジック、マヨネーズ、バター、食用油等）

・汚れを紙や布で吸い取ります。固形なら拭き取ります。
・油性マジックや油を含んだ食品の食べこぼし等は、少量のベンジンを使ってください。
・少量のベンジンを、雑巾に染み込ませトントン叩いてください。
・うすく希釈した中性洗剤をきれいな雑巾に染みこませて、汚れ部分をトントン叩くように落としてください。
・水分を含ませたティッシュで拭き、最後に拭き残しがないように雑巾で拭きとってください。

⚠ ベンジンを使用する場合の注意事項

色落ち…… カーペットの色が変色してしまう可能性があります。
使用前に目立たない所でテストしてから、ご使用ください。

火気に注意…… ベンジンは引火性の強い薬品ですので、ご注意ください。

換気をする …… 小さなお子様が吸わないように、換気をよくしてください。

カーペットは日常の清掃や予防を正しくすることで、快適な環境で気持ちよくお使いいただけます。汚れの予防には足ふきマットを使用することで効果的になります。
日常の清掃は掃除機やシミ取りが一般的なお手入れで定期的に必要なメンテナンスになります。

紅茶・コーヒー類	水で固く絞ったタオルで拭いてください。生クリームやミルク入のときは、薄い洗剤液で拭いてください。古いシミは、レモン片か酢で拭くと効果的です。
ビール・洋酒・日本酒	水またはぬるま湯を、布か綿棒に含ませて、シミを吸い取らせるような感じでたたいてください。ぬるま湯でも落ちないときは、中性洗剤をご使用ください。
キャンディー類	お湯に洗剤を溶かし、それで絞ったタオルで拭き取ってください。もし、跡が残っていたら、アルコールで軽く拭いてください。
ケチャップ	紙で取り、酢で拭いてください。色が残ったら、オキシドールで拭いてください。
しょう油・ソース	ティッシュペーパーなどでできるだけ吸い取り、洗剤を入れたぬるま湯で拭いてください。 古いシミはオキシドールで漂白してください。
生クリーム・バター・マヨネーズ	お湯を含ませた布で拭いてください。その後、洗剤液で拭いてください。まだ残るようならアルコールで、拭いてください。
口紅	アルコールでこすり取り、洗剤を入れたぬるま湯で拭いてください。
香水・化粧水	石鹸水で拭いてください。
クレヨン・靴ズミ	ひどい汚れはアルコールを歯ブラシにつけて、たたくようにして取り、その後ぬるま湯で拭いてください。
ふん（犬、猫など）	漂白剤入りのクレンザーを盛り上げ、べとべとしたものを吸い取らせてください。乾いてから掃除機の隙間ノズルで吸引してください。漂白剤は殺菌作用があり臭気も消えます。
泥	よく乾かして指先で落としてからブラッシングしてください。その後、洗剤を入れたぬるま湯を含ませた布でたたき落としてから水で拭いてください。

業者への依頼

シミや汚れによっては、専門のクリーニング業者にご依頼ください。